

### 【今日の説教から】

マタイ 6 章の、「主の祈り」の後のイエス様のお話のことが思い起こされます。断食をするときには人知れず。「隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さる」。「むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。 あなたの宝のある所には、心もあるから」

またルカ 16 章の金持ちとラザロの話も思い出されます。

ラザロは貧しく、全身をできものが覆いつくし、金持ちの門前で、食卓からのおこぼれで飢えをしのぎとしていました。犬が来て彼のできものをなめていました。この犬とは、貧しいながらの彼のわずかの食べ物を分け合っていたのでしょうか。

しかし門の中にいる豪勢に過ごしている金持ちは、ごく自分の家の門前でいのちのともし火が消えようとしている人の事など一向に構いません。彼の関心事は自分の富の事ばかりで、そこに心が奪われています。そして主は隠れた人の心の内をすべてご存じです。

今日の個所でも富を誇る人が登場します。しかしその蓄えた宝には錆が生じて毒を及ぼす、なぜならばその富は使用者の未払い賃金の上に成り立っているから、労働者の叫びは主の耳に届いているとあります。私たちの心はどこに向いているのでしょうか。進んで愛する御子の犠牲をもって私たちを富む者として下さった神様に向き、困窮の友に心が向かっているのでしょうか。

皆様おはようございます。

いよいよ 11 月となりました。昼間は 25℃を超える夏日が続きました。

寒暖の差のある日々でしたが、お元気にお過ごしでしたでしょうか。

さて、ヤコブ書もいよいよ最後の章となりました。

今日の個所を読みながら、二三の御言葉が思い起こされました。

ヘブル 10:30 「復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する」と言われ、また「主はその民をさばかれる」と言われたかたを、わたしたちは知っている。

10:31 生ける神のみ手のうちに落ちるのは、恐ろしいことである。

10:32 あなたがたは、光に照されたのち、苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してほしい。

マタイ 6:16 また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

6:17 あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

6:18 それは断食をしていることが人に知れないで、隠れた所においてになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるのである。

6:19 あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

6:20 むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

6:21 あなたの宝のある所には、心もあるからである。

6:22 目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだらう。

6:23 しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだらう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであらう。

6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

6:25 それだから、あなたがたに言うておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

ルカ 16:13 どの僕でも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない」。

16:14 欲の深いパリサイ人たちが、すべてこれらの言葉を聞いて、イエスをあざ笑った。

16:15 そこで彼らにむかって言われた、「あなたがたは、人々の前で自分を正しいとする人々である。しかし、神はあなたがたの心をご存じである。人々の間で尊ばれるものは、神のみまえでは忌みきらわれる。

16:16 律法と預言者とはヨハネの時までのものである。それ以来、神の国が宣べ伝えられ、人々は皆これに突入している。

16:17 しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びる方が、もっとたやすい。

16:18 すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うものであり、また、夫から出された女をめとる者も、姦淫を行うものである。

16:19 ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮していた。

16:20 ところが、ラザロという貧しい人が全身でき物でおおわれて、この金持の玄関の前にすわり、

16:21 その食卓から落ちるもので飢えをしのごうと望んでいた。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。

16:22 この貧しい人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。

16:23 そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えた。

16:24 そこで声をあげて言った、『父、アブラハムよ、わたしをあわれんでください。ラザロをおつかわしになって、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています』。

16:25 アブラハムが言った、『子よ、思い出すがよい。あなたは生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。しかし今ここでは、彼は慰められ、あなたは苦しみもだえている。』

16:26 そればかりか、わたしたちとあなたがたの間には大きな淵がおいてあって、こちらからあなたがたの方へ渡ろうと思ってもできないし、そちらからわたしたちの方へ越えて来ることもしかない』。

16:27 そこで金持が言った、『父よ、ではお願いします。わたしの父の家へラザロをおつかわしてください。』

16:28 わたしに五人の兄弟がいますので、こんな苦しい所へ来ることがないように、彼らに警告していただきたいのです』。

16:29 アブラハムは言った、『彼らにはモーセと預言者とがある。それに聞くがよからう』。

16:30 金持が言った、『いえいえ、父アブラハムよ、もし死人の中からだれかが兄弟たちのところへ行ってくれましたら、彼らは悔い改めるでしょう』。

16:31 アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者にとりて耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう』。

ルカ 16:16 律法と預言者とはヨハネの時までのものである。それ以来、神の国が宣べ伝えられ、人々は皆これに突入している。

ルカ 4:15 イエスは諸会堂で教え、みんなの者から尊敬をお受けになった。

4:16 それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。

4:17 すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出

された、

4:18 「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、

4:19 主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。

4:20 イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。

4:21 そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。

律法は、その一点一画も滅びるものではありませんが、イエス様による福音によって、十字架による救いと新しい契約、神の国の到来によって、律法は成就されました。人には出来なくなっていたことを神様はして下さいました。

主は憐れみ深いお方です。主の御目は苦しめる者に注がれ、その御耳は、苦しめる者の叫びを聞いておられます。

ヤコブ 5:1 富んでいる人たちよ。よく聞きなさい。あなたがたは、自分の身に降りかかろうとしているわざわいを思って、泣き叫ぶがよい。

2 あなたがたの富は朽ち果て、着物はむしばまれ、

3 金銀はさびている。そして、そのさびの毒は、あなたがたの罪を責め、あなたがたの肉を火のように食いつくすであろう。あなたがたは、終りの時にいるのに、なお宝をたくわえている。

前の章、4章にはこのようにありました。

4:8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。

4:9 苦しめ、悲しめ、泣け。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えよ。

4:10 主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。

その誇りとする富が朽ち果て、むしばまれ、錆び、毒を生ずる時。そのむさぼりの罪が熟して火に食い尽くされるように身の滅びを刈り取る時が来るからその災いを思って泣き叫び、悔い改めなさいと聖書には書いてあります。

5:4 見よ、あなたがたが労働者たちに畑の刈入れをさせながら、支払わずにいる賃銀が、叫んでいる。そして、刈入れをした人たちの叫び声が、すでに万軍の主の耳に達している。

5:5 あなたがたは、地上でおごり暮し、快樂にふけり、「ほふるる日」のために、おのが心を肥やしている。

5:6 そして、義人を罪に定め、これを殺した。しかも彼は、あなたがたに抵抗しない。

その富は、労働者たちの未払い賃金の上に成り立っていたのでした。人を用い、富を蓄え、しかしそれは労働者たちを欺いて、騙して不正に築いた富なのでした。そんなことをしても知られないだろう、立場の弱い人たちは自分に歯向かうことは出来ないだろう、自分の方が立場が上なのだから、自分の方が力があるのだから。働くことが出来て、幾何でも賃金をもらえるのならば有難いと思うべきだ。こう考えているかもしれません。しかし、「刈入れをした人たちの叫び声が、すでに万軍の主の耳に達している」のです。

イギリスの文豪ディケンズという人が書いたクリスマスキャロル、スクルージという人の事が思い起こされます。彼は働き人への賃金を惜しみ、その使用人の病気の子どもの事もよく顧みませんでした。そしてその子は静かに死んでいきましたが、スクルージは何とも思いませんでした。

クリスマスの幽霊たちが彼を訪れ、彼は自分にいかに愛がないのかを悟り、自分の強欲さを悟らされ、人から不当にむしり取って人を不幸に陥れて蓄えた富は、その自分が大切にしていた富は巨大な鎖となって彼を縛り付ける鎖、彼を底知れぬところに縛り付ける鎖であったことに気付かされました。彼は夢から覚めた後、生まれ変わって人柄が変わって、子供のように町を走り回り、不当な借金の証文を破り捨て、困った人のために寄付をし、彼の使用人の病気の子どものために治療費を出すことを約束します。こうしてまわりにクリスマスの喜びが広がりました。困っている人々のために良き未来が開かれたのです。

クリスマス。それは負債に苦しみ、死をもたらす罪の報酬の中に人々はどうすることも出来ないままに囚われていた人たちに、罪の赦しが宣言され、天文学的数字の負債が帳消しにされた日のことです。神様が愛する御子の犠牲のもとにそれを成し遂げて下さったのです。

今日、私たちの家の玄関の前に飢餓と病気のゆえに倒れている人はいないと思います。おられたとしても、私たちが救急車を呼べばそれで解決します。しかし私たちの隣人とは誰でしょうか。

私たちは誰をも未払い賃金にて雇ってはならず、むさぼり取ってもならず、自分で正當に働いたものでつつましく生活しています。しかし世界には私たちが持つもののごく一割も持つことが出来ず、戦争で住むところも追われ、家族を失い、路頭に迷う人たちがいます。

彼らの「叫び声が、すでに万軍の主の耳に達して」います。

私たちは無尽蔵の罪科を主に赦され、生活も守られています。何と恵まれた生活なのでしょう。そしてそれを当たり前であって、この生活を守っていくということばかり、自分の事ばかり考えていてよいのでしょうか。

6 そして、義人を罪に定め、これを殺した。しかも彼は、あなたがたに抵抗しない。

「叫び声が、すでに万軍の主の耳に達して」いる、抵抗もせずに正しさが踏みにじられ、問答無用で罪責を問われ、死刑に処されている彼らの苦しみ、やる瀬のない苦痛と悲しみ、惨めさと怒りをどうやって癒すことが出来るのか。私たちの心も、耳も目も、万軍の主とともに、それらの困窮する方々と共にありたいと教えられるのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。神様の目と耳は世界に開かれ、貧しく困窮し、泣き叫ぶ人々を見つめ、その声を聞いておられることを知らされました。愛する御子の命の犠牲を払っても、罪と呪いと縄目から私たちを救い出そうとして下さいました。あなたのお心はいつも私たちに注がれています。そんな神様のお心をお教えいただき、私たちの心はどこにあるのかを心探られます。天を仰ぎ見、慈しみ深き神様とそこをご慈愛をいつも思い、仕え、愛するものとして過ごせるように今週も私たちをお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン